


認知症を知る

持続可能な共生社会を目指して

 手話通訳付き

プログラム

日時：令和6年3月16日(土) 午後2時～4時

場所：東京都健康長寿医療センター研究棟3階第3会議室

総合司会 東京都健康長寿医療センター 齊藤 祐子

午後2時 開会の辞 東京都健康長寿医療センター理事長

鳥羽 研二

2時05分 講演 1

「アルツハイマー病：分子病理学から
疾患修飾療法へ」

座長 | 東京都健康長寿医療センター 副院長

岩田 淳

演者 | 東京大学大学院医学系研究科 教授

岩坪 威

2時35分 報告

「次世代のために～ブレインバンク報告～」

東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンク 研究部長

齊藤 祐子

2時50分 <休憩 10分>

3時00分 講演 2

「認知症予防を目指して今すべきこと」

座長 | 大阪大学大学院連合小児発達学研究科 常勤特任教授
東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンク
常勤特任研究員

村山 繁雄

演者 | 神戸大学大学院保健学研究科 教授

古和 久朋

3時30分 <小休憩 5分>

3時35分 総合討論 「認知症と共に生きる社会」

4時00分 閉会の辞 東京都健康長寿医療センターセンター長

許 俊鋭



講演概要

1 アルツハイマー病：分子病理学から疾患修飾療法へ

東京大学大学院医学系研究科神経病理学教授

岩坪 威



アルツハイマー病の脳には、「アミロイドβ (Aβ)」というたんぱく質が蓄積し、これが発症の引き金になると考えられています。この病気のメカニズムに即した治療薬（これを疾患修飾療法と呼びます）がようやく実用化に到達し、認知症治療を変えるスタート地点に立ったと言えます。

認知症治療薬の開発には、長い闘いの歴史があります。1980年代に患者の脳に現れる老人斑などの変化の研究が進み、90年代には家族性アルツハイマー病患者の遺伝子解析から、Aβが病気に深く関わることが分かりました。2000年頃から多くの製薬企業がAβを標的にした薬の開発に挑み、ワクチンや抗体薬の臨床試験が次々に始まりました。しかし、Aβを取り除けても病気の進行を抑えるのは困難でした。

こうした経験から、2010年代に登場した「レカネマブ」の臨床試験は、早期段階の患者さんに対象を絞って実施されました。ARIA（アリア）とよばれる脳のむくみや出血などの副作用に注意しながら用量を増やし、やっと明確な効果が確認されたのです。

しかしこれで十分というわけではありません。今回のレカネマブの試験で認知機能の悪化が1年半で27%抑えられたという試験結果は高く評価されていますが、さらに効果を高めていく必要があります。

考えられる方策の一つは、投与時期を早めることです。現在、脳にアミロイドなどの変化が始まっているが、症状が出る前の人（プレクリニカル期アルツハイマー病）を対象に予防効果を見る臨床試験が進んでいます。

Aβを標的とする治療薬は他にも開発されており、日米で承認申請中のイーライ・リリー社の「ドナネマブ」など、治療の選択肢が広がる可能性があります。

今後は、新薬を安全に使う体制整備が急務となります。レカネマブなどの抗体薬の場合に見られるARIAなどの副作用を回避し安全に治療を進めるため、定期的な検査が必要となります。現在、関連学会では専門医への研修を急ピッチで進め、多くの専門医療機関でレカネマブ等を用いた治療が始まっています。これらの新薬の実用化を契機に、日本全体の認知症診療のレベルアップが進むものと期待されます。

2

認知症予防を目指して今すべきこと

神戸大学大学院保健学研究科 教授
神戸大学認知症予防推進センター

古和 久朋



アルツハイマー病を対象とした新規の治療薬をもってしても一度発症した症状を改善することはできません。神経細胞が一度なくなってしまうとその機能を回復することが難しいからです。

そこで脳の病気には“脳を護る”という戦略が重要で、認知症についても完全に予防することは困難ですが、認知機能の維持や改善に有効とされる方法が最近の研究でわかってきました。

そのキーワードは“多因子介入”。一つだけのことをするのでなく、様々な運動、食事内容、脳トレーニング、生活習慣病の予防などを組み合わせることが重要です。できることから毎日の生活に取り入れて、健康長寿の実現を目指していきましょう。

報告

次世代のために ～高齢者ブレインバンクの取組み

東京都健康長寿医療センター
高齢者ブレインバンク(神経病理) 研究部長

齊藤 祐子



ブレインバンクの原点は、現在から次世代にわたるお一人お一人の「人生をより良くするお手伝いをしたい」、そのために脳の健康面から「脳の病気を知り、克服する」という形でのサポートの推進をする事業です。

「認知症」は我々が取り組んでいる疾患の中でも中核をなす疾患ですが、2023年は「認知症基本法」が制定され、さらに疾患修飾療法が本邦で承認されたという、本疾患の歴史において大きな節目の年でした。

人生100年時代がうたわれる一方で、超少子化社会を迎える私達や次世代が「いかに幸福に生きることが出来るのか？」を考える機会として、今回の公開講座のテーマを掲げました。個々の実情に合わせて、何等かのヒントをお持ち帰りになり、日常生活に活かして頂けますことを祈念しております。

ドナー登録ご協力をお願い

高齢者ブレインバンク



ホームページ

《病因解明や治療法開発のための医学研究へ貢献》

ドナー登録は「希望のバトン」

次世代の同じ病気を抱える人たちへ皆さまの思いを繋ぎます。



本日はご参加いただき
ありがとうございます。
ご案内資料などをご希望の際には、
事務局までお気軽にお問合せ下さい。



お問い合わせ
eメール

高齢者ブレインバンク事務局
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター内
電話03-3964-3241(内線4419または4417)
ホームページ <https://www2.tmig.or.jp/brainbk/>



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

<https://www.tmghig.jp/hospital/>